和歌山県地球温暖化対策情報誌

# わおん通信

2020 春号 vol.36

特集

# あと10年 COP25から見る 2030年までの今

CONTENTS


P2－P3
県内地域の取組
地域の力で森も町も豊かにする
５分チェックでエコな暮らしを再確認
SDGs ゲームで気候変動も一緒に考える
地域を意識しながら気候変動を考える
地球塾 Vol.8：「どうする？」「何する？」「何したい？」
あそぼうさい＆まなぼうさい
推進員 精ちゃんの
ああしたら こうなった 4（全６回）

P4－P5
あと10年
COP25から見る2030年までの今

P6 県情報
和歌山県におけるプラスチックごみ対策
についてご紹介します!!

P7 推進員さん訪問記㉛
なるほど　ザ・ワード

P8 INFORMATION

## 地域の力で森も町も豊かにする

**2019年11月23日・24日**
**木の駅シンポジウム&ワークショップ**
**すさみ町多世代交流施設E'cora・他**

**[すさみ町木質バイオマス利用地域協議会]**

すさみ町で開催されたこのイベントは、2018年に策定した「木質バイオマスエネルギー導入計画」に基づいて、地域にチップ材を燃料とするボイラーが導入される動きに連動したもので、荒廃する森林と地域経済が少しでも上向くことにつながればとの思いが込められています。今回、木の駅の第一人者である丹羽健司さんを講師に招き、木の駅についての基調講演、翌日には木の駅の一連の流れを学べるワークショップが開催されました。「木の駅」は、地元の方々が汗を流して間伐材や残材などを山から下ろすと、地域通貨で買い取ってもらえる仕組みで、すでに全国80か所で取り組まれています。地域通貨は地元協力店でのみ利用可能なため、森と町で同時に2つの好循環が生まれるというものです。地域内外から2日間でのべ24人が参加し、「俺たちの地域のことは俺たちで決める新たな自治の姿が木の駅にはある。」、「家でゴロゴロしていた人が、チェーンソーを担いで山に入ると、山も町もみんな笑顔になれる。」といった丹羽さんの話に熱心に耳を傾けていました。

## 5分チェックでエコな暮らしを再確認

**2019年11月23日**
**ふれあい人権フェスタ2019**
**和歌山ビッグホエール**

**[和歌山県センター]**

このイベントは、和歌山県の人権施策基本方針に基づき、「人権が尊重される社会づくり」と「人権文化の創造」を目指して毎年ビッグホエールで開催されています。今回は認知症に関する映画の上映やこころの健康についての講演などが行われ、医療や介護関係の企業のブースなど150以上の出展がありました。このイベントへの県環境生活総務課との合同出展は、今年で6回目となります。会場では、クールチョイスの紹介や啓発、「おもしろ環境まつり」の宣伝、5分でできる家庭のエコチェックを実施しました。回答者からは、「お風呂に続けて入ると、こんなに省エネになるんやね。エコには気をつけていたつもりだったけど勉強になりました。」、「家族に数字を見せたら納得して協力してもらえそうでうれしいです。」といった声がありました。エコチェックには406人の皆様から回答をいただき、例年よりも気候変動や暮らしの工夫への意識や関心の高まりを実感しました。

## SDGsゲームで気候変動も一緒に考える

**2019年12月15日**
**地球温暖化防止活動推進員養成講座in田辺市**
**田辺市民総合センター**

**[和歌山県センター]**

推進員養成講座の第3弾が田辺市で開催されました。この日集まったのは、紀南地域地球温暖化対策協議会に所属する推進員をはじめ、市の職員、梅農家など総勢24人です。この日は「2030SDGsカードゲーム」を行い、世界がどんな動きをしているか、また気候変動が他の分野とどのように関わっているかを体験しながら学びました。ゲームは公認ファシリテーターの平井研さんの説明でスタート。始めは戸惑いながらも参加者は2人1組で国の代表者となって、世界情勢にマッチしたプロジェクトカードを実行していきます。ゲームが進むにつれて、「経済」、「環境」、「社会」を表すマグネット数のバランスが崩れていきます。2030年までの限られた時間の中で、自分の国と世界の国々のそれぞれが目標達成する必要性に気付いた参加者は、後半大きく行動を変化させ、お互いに国の目標を確認し、助け合いながらゲームに取り組みました。参加者は「私たちの活動が、他の分野にどのように関わっているのかを今まであまり意識したことはありませんでした。地球温暖化問題も自分のこととして考え、何ができるかを模索していきたいと思います。」と話していました。

## 地域を意識しながら気候変動を考える

**2020年1月26日**
**地球温暖化防止活動推進員養成講座in那智勝浦町**
**那智勝浦町体育文化会館**

**[和歌山県センター]**

年6回開催の推進員養成講座、折り返しとなる第4弾の開催地は那智勝浦町でした。この日は紀南地域在住の推進員をはじめ、日頃社会福祉業務に携わる方、将来医療関係を目指す学生、海の環境保全活動を行っている方など14人が参加しました。地方創生カードゲームの公認ファシリテーター赤岡誠さんがゲームルールや考え方について説明した後、参加者は行政担当者と市民に分かれ、各々の目標達成に向けてゲームを進めていきます。ゲームには「若年人口」、「経済」、「環境」、「暮らし」の状況を表す4つのメーターがあり、時間経過とともに次第に若年人口が減っていきます。参加者は、各々の目標とともに魅力ある街づくりを目指し、プロジェクトを実施していきます。12分ごとに変化する4つのメーターを全員で確認し、そのたびに良かった点や課題などを共有しながら進めていきます。今回は参加者の力が合わさり、理想的な街をつくることができました。ゲームの後、地球温暖化防止活動の意義や県内活動の具体的な事例を紹介し、新たに仲間になってくれる方を募りました。参加者はゲームを振り返り、世代や立場を越えて関心を持ち、活発にコミュニケーションを図ることで課題が解決していくことを再認識し、実際の活動でも協働していこうと意識を高めました。

## 地球塾Vol.8：「どうする？」「何する？」「何したい？」
### ～山積する問題解決に立ち向かうエネルギーを高めよう～

2020年2月1日
創 -hajime- café（山﨑邸）

[地球塾プロジェクト]

地球塾は、環境や健康、持続可能な暮らしや社会を考える場を作りたいという思いのもと、2016年から始まりました。これまで、「いのち」をテーマにしたドキュメンタリー映画の上映会をはじめ、地域の食とエネルギーの自給を考える学習会、アフリカ在住のキベラスラムの支援活動家によるお話会や東日本大震災以降全国の被災地支援を続けるNGOの活動報告会などを開催してきました。会場は、昨年と同じく粉河にある近代和風建築の「山﨑邸」。44人の参加者は山﨑邸の大広間に輪になって座り、「全員の発言を全体で共有する」スタイルで進行しました。進行役から「どうする？何する？何したい？という問いかけに対する発言に限らなくてよいこと」と、「人の話を受け止めること（無理に受け入れなくてもよい）」というルールが告げられた後、参加者は自由に発言しました。参加者からは全体を通じて大きく3つのことが述べられました。①今地球上に生きる私たちは誰一人逃れることのできない問題（気候変動、海洋・土壌・大気の汚染など）を抱えている、②これらの問題は未来の世代のために必ず解決しなければならない、③解決の道を進むためにはエネルギー（仲間）が必要であるということでした。終了後も活発な交流が行われ、アンケートにも「共感できた」、「感動した」、「新たな発想やつながりを得られた」という言葉が多く見られました。今回の地球塾を通して山積する問題の解決に立ち向かうエネルギーを参加者全員で高めることができたと感じました。

## あそぼうさい&まなぼうさい

2020年2月11日
防災体験＆実践イベント
上富田産業振興・文化交流館

[KUMANO　BASe]

体験や実践で防災意識を高めようとするイベントが行われ、大人子供を交えた18人が参加しました。講師は看護師と防災士の資格を持つ幾島浩恵さんです。講習が始まると同時に緊急地震速報のアラームが鳴ります。「皆さんどうしますか。」との問いかけで、参加者は机の下に身を隠します。「地震がおさまりました。次はどうしますか。」参加者は「津波に備えて逃げる。」と答えます。「何を持って逃げますか。避難所で役立つ物は。」と次々に参加者に問いかけていきます。幾島さんは自身の阪神淡路大震災での経験を交えて「常日頃から心の準備をしておくことが大切です。当時は火事で燃え上がる炎を前に、ぼう然と立ち尽くす人もいました。災害時は自ら声を出して助けを呼ぶ、そして周りの人にも声をかけて一緒に行動することが重要です。」と伝えました。後半は身近な物で代用品を作るワークショップにも取り組みました。幾島さんにかかれば、ストッキングが包帯代わりになったり、スーパーのレジ袋が腕を固定する三角巾になったりします。新聞紙を上手に使って食器を作る参加者もいて、事前に経験しておくことの重要性を改めて感じました。今後も小さな子供から大人まで一緒に学べるスペースを作り、災害時には一人でも多くの命を救い、みんなで災害を乗り越えたい。幾島さんの思いを参加者全員が共有した1日でした。（県センター）

## 推進員 精ちゃんの ああしたら こうなった

6回シリーズ

### 海の向こうで「持続可能な暮らしづくり」奮闘記 4

海外シニアボランティアとして「ごみ問題」解決のために南の島フィジーに渡った“精ちゃん”の奮闘記、さて今回は？

#### ＜計画の内容＞

コンポストヤード

４月から働き始めて、７月までの４か月をかけて、現場を見たり、ごみのデータなどを集めて、素案を作りました。その後、現地のリサイクル担当者と環境教育担当者の２人の職員と議論をしながら最終素案を作りました。まず、前書きで二つのことを書きました。一つは海洋の膨大なプラスチックごみがこの国の回りにあること、もう一つは私がフィジーに行く１か月前にこの国を襲った巨大サイクロン・ウインストンのことでした。なぜなら、フィジーの現首相は、海外メディアに対して「サイクロンの巨大化は地球温暖化が原因だ」と訴えているからです。私が前書きで言いたかったのは、この二つはどちらも石油や石炭などの大量使用が原因であり、今の私たちの生活のあり方を考えなければいけないということでした。次に基本計画を立てました。そのメインには「有料指定袋制度の導入」を記載しました。これは日本では最もスタンダードな制度ですが、フィジーの人にごみを出すことの責任を自覚してもらうには、この制度が最も適していると考えたからです。私は、分別が可能なようにこの指定袋に「埋め立て用」と「リサイクル用（ペットボトル、缶、古紙）」の２種類を作ることを記載しました。もちろん、その前に十分な教育啓発を行うことも付け加えました。

収集作業

（次号に続く）

このコーナーでは推進員の方々の $CO_2$ 削減活動を募集しています。ぜひ、「私はこんな活動をしました」という声をお寄せください。

# あと10年　COP25から見る2030年までの今

**2019年12月２日から15日までマドリード（スペイン）で開催されたCOP25（国連気候変動枠組条約第25回締約国会議）。各国のさらなる行動強化が大きなテーマとなった今回、世界各国の動き、そして日本の状況について特集します。**

COP25全体会プレナリーで声をあげるユース（c）Masayoshi Iyoda, Kiko Network 2019
出典：https://www.kikonet.org/international/unfccc/cop25/

## 「行動強化を！」マドリード市内で50万人が参加

COP25は、開幕１か月前にサンティアゴ（チリ）から急きょマドリードに変更されました。各国の首脳や閣僚たちが集う会場には、９月にニューヨークで開催された「気候行動サミット」で一躍注目を集めたスウェーデンの環境活動家グレタ・トゥーンベリさんの姿もありました。また、マドリード市内では会期中に２回の気候保護ストライキが行われ、合計50万人が集結し、各国への行動強化を求めました。

## 主要な会議内容

COP25での主な交渉内容は以下のとおりです。

1．市場メカニズム（パリ協定の実施指針６条）

COP25会場の様子
出典：https://www.nies.go.jp/social/topics_cop25.html

2．国別約束（NDC）における削減行動を引き上げて2020年に再提出する要請

3．損失と被害

### 1．市場メカニズム

市場メカニズムとは、排出削減実績を国際的に取引したり、削減事業を他国間で共同実施したりする仕組みのことです。COP25では、土台となるルールの再構築が議論されましたが、各国が自国にとって有利に働くよう主張したため合意には至らず先延ばしとなりました。

### 2．国別約束（Nationally Determined Contribution;NDC）

IPCCが2018年にまとめた「1.5℃の地球温暖化」特別報告では、「気温上昇の抑制は可能だが、残された時間は約10年である（残された10年）」としており、国別約束における行動の引き上げを急がなければならない状況が改めて明確になりました。

パリ協定発効時点で各国は、国別約束を示していますが、その目標では1.5℃目標の達成にはとても足りません。

今年、2020年には、各国は2030年までの温室効果ガス排出目標を含む国別約束を再提出することが求められています。

では、ここで、「パリ協定」発効時点で各国が示した目標を今一度確認してみましょう（右表を参照）。

**◆足りない削減目標**

こうして掲げられた削減目標全体では、「2030年の排出量250億トン−$CO_2$に抑える」というパリ協定の目標達成には届かず290 ～ 320億トン−$CO_2$超過となります。

また、排出削減目標の期間が国によって５年や10年とまちまちで、比較しづらい状況となっています。

目標期間を10年とした場合、不十分な目標が固定されてしまうおそれがあり、期間を５年とした上で、その都度高い目標に引き上げていくべきであるというのが、COP25における多くの国の意見です。日本を含む一部の国は、期間を10年とすべきと主張しており、この議題についても先延ばしとなりました。

### 今一度「パリ協定」をおさらい

パリ協定が発効したのは2016年11月４日。「画期的な合意」と言われた国際ルールは、次のようなものでした。

（1）産業革命以前に比べて世界の平均気温上昇を２℃より十分低く保ち、さらに1.5℃に抑える努力をする。

（2）そのため、できる限り早く世界の温室効果ガス排出量をピークアウト（増加傾向にあるものが頂点に達し、減少傾向に転じること）し、21世紀後半には、温室効果ガス排出量と吸収量のバランスをとる。

また、各国は2020年以降の自主的な削減目標（国別約束）を国連に提出し、達成に向けた国内対策を実施することが義務付けられました。

**各国の削減目標**

**国連気候変動枠組条約に提出された約束草案より抜粋**

| 国名 | 削減目標 | |
|---|---|---|
| 中国 | 2030年までに GDP当たりの$CO_2$排出を 60-65% 削減 ※2030年前後に、$CO_2$排出量のピーク | 2005年比 |
| EU | 2030年までに 40% 削減 | 1990年比 |
| インド | 2030年までに GDP当たりの$CO_2$排出を 33-35% 削減 | 2005年比 |
| 日本 | 2030年度までに 26% 削減 ※2005年度比では25.4%削減 | 2013年度比 |
| ロシア | 2030年までに 70-75% に抑制 | 1990年比 |
| アメリカ | 2025年までに 26-28% 削減 | 2005年比 |

平成27年10月1日現在

### 3．気候変動による損失と被害

気候変動対策には、温室効果ガスの排出削減策と気候変動影響への適応があります。気候変動による「損失と被害」は、「適応」の範囲を超える損失や被害を指しています。COP25では「損失と被害に関するワルシャワ国際メカニズム（※）」による検証が行われました。その中で現在すでに海面上昇等の影響で被害が出ている国々が、被害を補填する資金を求めましたが、既存の枠組みの中で検討を続けることになりました。

**※損失と被害に関するワルシャワ国際メカニズム**

2013年のCOP19で設立することが合意された国際組織。気候変動による損失や被害に対処することを目的としている。起こりうるリスクに関する理解を深めるとともにデータや知見の共有、国連を含む条約内外の関係者との連携を進めることによって資金、技術、能力構築などの支援の強化を行ってきている。

## 全体と日本のこれから

COP25では、「市場メカニズム」、「国別約束」、「損失と被害」といったテーマを中心に交渉が行われました。中でも、市場メカニズムについては、予定会期を２日間延長して詰めの議論が行われましたが、全体的に各国の立場が求める「利害の溝」が大きく、最終的に合意には至らず、実質的に次回COP26グラスゴー会議へ先送りとなりました。残念ながらパリ協定に基づく気温上昇を1.5℃～２℃未満に抑える目標に向けて十分な決定が出されたとは言い難く、危機感が高まっている世界の人々の声に十分に応える成果が得られたとは言えません。

また、日本は石炭火力発電からの脱却やパリ協定で掲げた目標の引き上げを表明しなかったことから批判を受けることになりました。

いずれにしても、「残された10年」という期間での取り組みにおいて、世界レベルでのさらなる行動強化が求められます。まず私たち国民一人一人が気候変動の現状と将来の危機に対して関心を持ち、世界のこと、日本のことを知り、そして目標達成のため自ら率先して行動することが、ますます重要になってきています。

## 世界のこと、日本のこと、そして和歌山のことを考えるために

2019年も多くの異常気象が観測されました。世界に目を向けると北極海、南極海での氷の縮小、欧州の熱波による気温上昇、「バリー」や「ドリアン」といったハリケーン、そしてオーストラリアの森林火災。日本に目を向けると、台風15号や台風19号による大きな被害が発生しました。和歌山でも2018年に台風21号による大きな被害を経験し、これらの報道の多さから地球温暖化への関心が非常に高まっています。

和歌山県センターでは、地球温暖化についていつでも学べる専用サイトを開設しています。地球温暖化についての基礎的な情報に加えて、影響や経済的な対策について知ることができます。是非アクセスし、ご自身の知識を深めて積極的な地球温暖化防止活動に役立ててください。「地球温暖化学習サイト」　http://wenet.info/el/

詳しくは８ページをご覧ください

# 和歌山県におけるプラスチックごみ対策について紹介します!!

昨年５月末、国において「プラスチック資源循環戦略」等が策定され、６月末に開催されたG20大阪サミットでも海洋ごみ対策等プラスチック問題が議論されるなど、プラスチックの海洋流出の防止、資源循環は国内外を問わず大きな注目を集めています。

プラスチックごみに限らず一番悪いのは不法投棄やポイ捨てであり、それらが時として海へ流出し、海洋汚染の一因となっていると考えられています。これは私たち一人一人が主体的に考え、取り組まなければならない課題であり、和歌山県においても、県民や事業者団体の方々との連携を深めながらその対策に取り組んでいます。

## 取り組み紹介　海ごみゼロ　和歌の浦クリーンアップの実施

環境省では、５月30日（ごみゼロの日）から６月８日（世界海洋デー）までの期間を“海ごみゼロウィーク”と定め、全国の個人、団体、企業、自治体等に海洋ごみ削減に向けた全国一斉清掃活動への参加を呼びかけています。和歌山県でもそれに合わせ、「海ごみゼロ　和歌の浦クリーンアップ」と題し、2019年６月１日（土）に和歌の浦 片男波海水浴場周辺で清掃活動を実施しました。

当日は230人の参加者が集まり、全員で歴史ある和歌の浦の海岸の清掃を行い、合計226袋ものごみを回収しました。

当日の様子

## ごみ拾い活動を見える化！
## ～ SNS「PIRIKA（ピリカ）」＆ウェブサイト「クリーンアップわかやま」～

和歌山県では県民運動として美しい環境や街並みを守り、県民にとって健康で文化的な生活環境を将来にわたって残していけるよう、県全体でごみ拾い活動を進めています。

これまで県内で行われるごみ拾い活動は、個人や団体ごとに行われることが多く、地域全体での実態把握や効果の測定ができないという課題がありました。そこで、2018年９月にごみ拾い活動の見える化を目的にウェブサイト「クリーンアップわかやま」を開設しました。

この「クリーンアップわかやま」は、各個人や団体が行った和歌山県内の清掃活動をスマートフォンアプリ「PIRIKA（ピリカ）」によって写真付きで投稿（報告）してもらうことで、「クリーンアップわかやま」にその情報が集約され、県内でそれぞれが行った清掃活動を誰でも一目で分かるようにする（＝可視化する）というものです。

また、それぞれの活動に対し、他のユーザーがコメントや感謝を伝えることができる機能もあり、これにより「次もまた清掃活動を行おう！」というモチベーションアップにつながることが期待できます。

さらに、投稿により、拾ったごみの量や種類、活動した場所の位置情報が把握できるため、地区ごと、季節ごとに落ちているごみの種類や増減を分析し、街の美化対策の参考とすることもできます。

このウェブサイト「クリーンアップわかやま」へは2020年２月末時点で、約7,400人の方に参加いただいています。今後も和歌山県では県民の皆様の積極的なごみ拾い活動を応援していきます。ぜひSNS「PIRIKA（ピリカ）」・ウェブサイト「クリーンアップわかやま」へ参加いただき、ごみ拾い活動へのご協力をよろしくお願いします。

・ごみ拾いアプリ「PIRIKA」を使い、ごみ拾いを行った場所（位置情報）と回収したごみの量を投稿

・投稿された内容は「クリーンアップわかやま」に集約される

松っちゃんの

# 推進員さん ひょっこり 訪問記 31

上富田町　**幾島 浩恵** さん

推進員３期生の幾島さんは岡山県の出身でお父さんの勤務地の関係で子供の頃は、中国地方の各地で過ごしました。今の活動の原点は、神戸で看護師として仕事をしていたときに起こった阪神淡路大震災での被災だといいます。その後、結婚をして住まいは上富田町になりました。震災の経験を通して、自分にも何かできることがあるのではないかという思いが動機となり、2006年に地球温暖化防止活動推進員になると同時に防災士の資格も取得しました。このことをきっかけに、上富田町教育委員会が朝来児童館で月３回土曜日に行っている「上富田ふれあいルーム」で小学校３～６年生を対象に工作教室や防災教室を始め、現在も続けています。

この教室では、お金をかけずに要らなくなったものを利用したリサイクル工作や災害時の避難所を想定した火おこしの体験など、子供たちが楽しく過ごせるように毎回工夫を行っています。今の子供たちには、このような体験が新鮮で、関心を持って取り組んでくれています。長年のこうした活動の成果が実り、内閣府による「平成30年度防災教育チャレンジプラン」において「防災教育大賞」を受賞しました。「防災」に取り組むために一番大切なことは、自分たちの住む地域を知り、誇りを持ち、好きになること。災害時に生き抜くために必要なことは、便利な物がなくても何とかできる、様々な応用力を身に付けること。これらは昔のエコロジカルな生活そのものです。エコと防災を結びつけた活動をこれからも続けていきたいと意気込みを語ってくれています。

幾島さんはもともと旅行が大好きで、国内外を問わず出かけています。海外50数か国を訪れた経験があり、その外国で貧困や環境破壊を目の当たりにするたびに、まだまだ頑張らなければと感じているといいます。子供ができて母となった今、自分の子供と同様に地域の子供たちのために自分の持てる力を十分に提供している優しく、たくましいお母さん推進員の幾島さんに今後も活躍いただきたいと思います。

# なるほど ザ・ワード

STOP温暖化・焦点の言葉 32

＊地球温暖化をめぐる報道などで、いま焦点となっている言葉を簡単に解説します

## RE100

RE100とは、「Renewable Energy 100％」の略語です。事業や活動で使用するエネルギー調達を2050年までに再生可能エネルギー100％に切り替えることを表明することが参加条件です。2020年１月時点で世界の220を越える企業/団体が参加しています。最も参加が多いのはアメリカで、EUが続き、日本からは30の企業/団体が参加しています。アメリカは2018年にパリ協定からの離脱を表明しましたから、RE100への参加企業が多いことは意外に映るかも知れません。しかし、民間は今も野心的で、政府決定に反してパリ協定にとどまる「We Are Still In！」キャンペーンを始め、2019年の時点で3,811の企業、州、大学が参加しています。エコ文明を国策として表明し、脱石炭、脱原発を打ち立てた中国ですが、RE100への参加は一桁の企業にとどまっています。

営利企業、しかも超がつく大企業が、なぜこのようなエコ活動に参加するようになったのでしょうか。その背景には、世界の投資が環境貢献企業に集まり始めたことがあります。この投資市場の変化は、ESG（Environment環境、Social社会、Governanceガバナンス）投資と呼ばれ、気候変動防止など世界課題への取り組みが不十分だとみなされた企業は、「長期的に衰退する」リスクから投資対象として敬遠されるようになりました。エシカル（倫理的）消費者の台頭です。気候変動防止、フェアトレード、オーガニック、障がい者支援、動物福祉、リサイクルなどが消費の前提になり始め、企業は自社への投資を継続させたり、自社の株価を下げないためにRE100への参加を余儀なくされたわけです。日本ではRE100に参加する企業が少なく、近い将来国際投資市場から取り残される危機感が希薄だとされています。

一方、将来環境産業の経済規模が世界GDPの25％以上にも及ぶことが予測されるようになり、この新たな動きに対し、企業が将来の利益を求めて先取りで行動変革したとみることもできます。化石分野からの早期撤退と環境分野への転換を進めている石油最大手の最高責任者は、「我々の主要事業である化石分野は、甘く見積もってもこの先数十年間の商いにしかならない。この先1,000年持続させる可能性のある分野は、今のところ環境分野しか思い浮かばない。」と述べています。このような話からRE100は、大企業がエコ経済における競争力と利権を独り占めするためのものだとの批判が存在します。しかし、この新たな動きの及ぶ範囲と環境保全への効果、経済利益の分配を決める「カード」は、実は世界中の消費者、つまり私たちの「エシカルな行動」が握っていることを強く意識しておきたいものです。

## イベント情報

### ◆ストップ温暖化のチラシ配布（定期活動）

活動期間：2019年７月～2020年６月までの１年間
定期実施：毎月第１日曜日　午前11時～12時
※時間は変更の場合があり、その際は事前にお知らせします。
活動場所：和歌山市内のスーパーマーケット
JR和歌山駅西口から近鉄百貨店までの歩道を予定。
※配布場所は都度事前連絡します。
※雨天中止（前日までに参加申込者に連絡します。）
主催：紀州村
問合せ：090-3282-5111（さかした）

### ◆紀州九度山　真田まつり

**2020年５月４日（月）**

場所：道の駅「柿の郷くどやま」芝生広場
(伊都郡九度山町入郷5-5)
主催：九度山町真田まつり実行委員会
出展：伊都・橋本地球温暖化対策協議会
内容：地球温暖化防止啓発、自然素材のクラフト教室

### ◆和歌山アースデイ2020 ビーチクリーン

**2020年４月26日（日）9:00～12:00**

場所：有田郡湯浅町 栖原海岸
集合場所：アイランドストリーム
（有田郡湯浅町栖原1434）
参加申込み：wakayamaearthday@gmail.com
主催・問合せ：和歌山アースデイ2020実行委員会
後援：和歌山県、NPOわかやま環境ネットワーク
http://islandstream.la.coocan.jp/earthday2020.html

### ◆家族農林漁業プラットフォーム和歌山（FFPW）第２回総会

**記念企画：印鑰（いんやく）智哉氏講演会とマルシェ開催**

**2020年５月10日（日）10:00～17:00（予定）**

場所：和歌山県JAビル
２Ｆ和（なごみ）ホールA・B・C
（和歌山市美園町5-1-1）
主催：家族農林漁業プラットフォーム和歌山

### ◆地球温暖化学習サイト【eラーニング】

地球温暖化について学ぼう＜運用中＞
全推進員必見！ですが、特にこんな方におすすめです。
○これから推進員として活動を始められる方
○すでに推進員だが養成講座になかなか参加できない方
○地域でお話会を予定していて事前に
おさらいをしておきたい方

https://wenet.info/el/ ➡

あなたの活動をサポート **わかやま推進員サイト** わかやま 推進員 検索 イベント情報も随時更新

## 県センター通信

今年の冬は暖かい日が続きました。紀南地域では梅の花が早く咲いただけでなく、同じ梅畑の中でも開花の時期が木によってまちまちだったそうで、農家さんは収穫への影響を心配されていました。受粉に大切なミツバチもすっかりいなくなってしまったとも聞きます。また、今度の夏はどのような気候になるのか、気温や台風のことも気になります。私たちが気候の変化を身近に感じるとともに、メディアでも「地球温暖化」や「気候変動」という言葉が当たり前のように聞かれるようになりました。このような言葉がメジャーになっていることを肌で感じるのは複雑な心境ですが、これをチャンスと捉え、より一層活動の輪を広げていきたいと思います。

また、夏にはレジ袋の有料化も義務化されます。春本番を迎えたら、お出かけはお気に入りのマイバッグと一緒にいかがでしょうか。

2020 春号 vol.36

わおん通信

発行／和歌山県環境生活総務課
〒640-8585 和歌山市小松原通1-1
TEL：073-441-2674　FAX：073-433-3590
mail：e0317001@pref.wakayama.lg.jp

編集・お問い合わせ／和歌山県地球温暖化防止活動推進センター
〒641-0014 和歌山市毛見996-2
TEL：073-499-4734　FAX：073-499-4735
mail：wenet@vaw.ne.jp

PRINTED WITH SOY INK